

# 「研究開発マップ」の新分野等の考え方

研究開発 WG (産学) 幹事

## 1. 研究開発マップへの追加を検討する項目

本年6月1日に報告した「地理空間情報の利活用に係る研究開発マップに関する報告書」では、以下の2分野の検討が未実施のため、本年度で追加検討を実施したい。

- (1) 海洋分野での特徴的な活用例の検討並びに共通的な基盤技術の抽出
- (2) 時刻利用分野での特徴的な活用例の検討並びに共通的な基盤技術の抽出

【参考】地理空間情報活用推進基本計画から

第I部 1. 地理空間情報の活用推進の意義

**時刻**に関する情報を含む位置の情報と、位置の情報に関連付けられた様々な事象に関する情報が地理空間情報であり、地理空間情報を高度に活用するために必要なツールが地理空間情報システム(GIS)と衛星測位である。…(略)…

これら、GIS・衛星測位は…(略)…既に日々の暮らしの中や経済活動の中で活用されている。また、利用される地理空間情報も、陸域ばかりでなく**海域**や空域にまで広がっている。…(略)…

第II部 第1章 1. (1) 政府が一体となった施策の推進とその体制整備

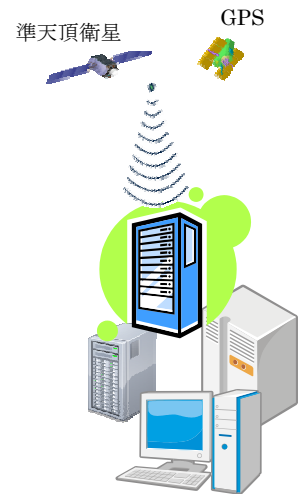
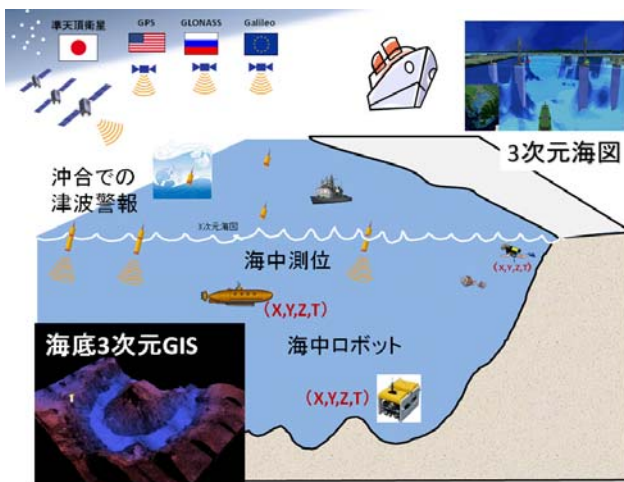
…(略)…地理空間情報の活用の推進のための効果的な施策を総合的かつ計画的に推進する。その実施に当たっては、IT政策、イノベーション政策、**海洋政策**、宇宙開発政策等との十分な連携を図る。

## 2. 勉強会の追加開催

研究開発WG(第5回)で提案された今後のスケジュールについて、上記1項を実施するために、勉強会の開催を提案する。

勉強会のテーマ(仮)

- ・海洋分野の研究開発動向など  
(東京大学 生産技術研究所 浦 環教授、浅田 昭教授を予定)
- ・時刻利用分野の研究開発/利活用動向など  
(衛星測位システム協議会 西口 浩事務局長、  
日本無線(株) 研究開発本部 技術開発部 川添 利洋部長を予定)



これからの時刻同期 1msec

## 3. スケジュール

今年度中に、新分野を追加した「研究開発マップ」の作成を予定している。